

**製品名: AKAP 10 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06717**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	73kDa

**抗原情報**

遺伝子名	AKAP10
別名	AKAP10; A-kinase anchor protein 10; mitochondrial; AKAP-10; Dual specificity A kinase-anchoring protein 2; D-AKAP-2; Protein kinase A-anchoring protein 10; PRKA10
遺伝子 ID	11216.0
SwissProt ID	O43572
免疫原	抗血清はヒト AKAP10 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

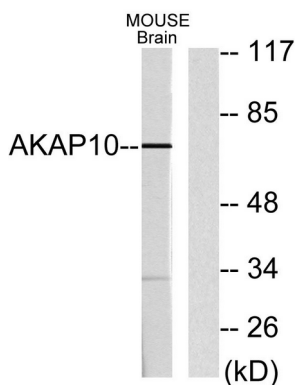
**背景**

この遺伝子は、Aキナーゼアンカータンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。Aキナーゼアンカータンパク質は、プロテ

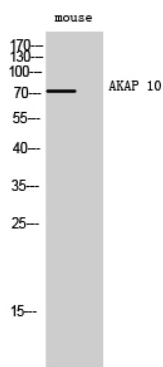
インキナーゼ A (PKA) の調節サブユニットに結合し、ホロ酵素を細胞内の特定の場所に限定します。コードされているタンパク質はミトコンドリアに局在し、PKA のタイプ I およびタイプ II 調節サブユニットの両方と相互作用します。この遺伝子の多型は、不整脈や突然心臓死のリスク増加と関連している可能性があります。[RefSeq 提供、2012 年 5 月]、ドメイン：両親媒性ヘリックスを形成すると予測される RII- $\alpha$  結合部位は、R サブユニット二量体の相補的な表面とタンパク質間相互作用に関与する可能性があります。機能：プロテインキナーゼ A のタイプ I および II 調節サブユニットに結合し、それらをミトコンドリアまたは細胞膜に固定する、異なる標的タンパク質。PKA および AKAPS とミトコンドリアとの生理学的関連性は完全には解明されていないが、アポトーシス促進因子である BAD がミトコンドリアアンカー型 PKA によってリン酸化・不活性化されるという説がある。BAD が多タンパク質複合体形成のためのアダプターとして機能し、PKA および G タンパク質シグナル伝達を促進する可能性も否定できない。RGS ドメインを有する BAD は G- $\alpha$  タンパク質との相互作用を誘導し、シグナル伝達機構と下流キナーゼを繋ぐ役割を担う可能性がある。類似性：2 つの RGS ドメインを含む。細胞内局在：主にミトコンドリアに存在するが、膜結合型および細胞質にも存在する。

## 研究分野

## 画像データ



AKAP10 抗体を用いたマウス脳ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



AKAP 10 ポリクローナル抗体を用いたマウス細胞のウェスタンブロット分析